

土岐川庄内川市民意見交換会（最終回） 最終提言がまとまりました。

土岐川庄内川市民意見交換会は、流域から公募で集まった有志（最終登録者99名）が参加し、平成15年9月からこれまでに10回の会合、4回の川歩きを行ってきました。また、途中からは4つのテーマ別グループに分かれ、個別に話し合いや現地調査などに取り組んできました。

その成果をこのほど「土岐川・庄内川河川整備計画への提言」としてまとめ、最終回の2月27日に、浅野庄内川河川事務所長に手渡しました。この提言には、「土岐川庄内川魅力資源マップ」が資料として付けられ、これまで参加者みんなで出し合った情報や川歩きの結果も一緒に手渡しました。



提言を浅野事務所長（写真左）に手渡す

これまでも、昨年春の「情報マップ」、秋の「中間まとめ」など、途中段階での成果はすでに河川整備計画案に活かされてきています。そして最終提言では、行政と市民の協働事業（協力して進める事業）の提案などが追加されています。

この提言を実現していくために、流域連携や協働事業にかかわっていこうという意志をお互いに確認して、市民意見交換会は閉会しました。

これから、この仲間はどうか？
こんな意見が出ています⇒

今後は、OB有志が核となって、ここで提案したことを実現するために、実動プロジェクトを立ち上げて活動していきます。
4月以降に、企画会が始まる予定です。どうぞ、ご注目ください！

実験区として、生態系豊かな緑の回廊を協働でつくる

流域が連携した同時多発イベントで、子どもも体験活動しよう

新しい人をどう集めるかが課題

もっと川歩きをしよう

この情報を活かして、庄内川情報マップを作成、発行しよう

各地区に出向いて、地域の人と一緒に提案づくりをしよう



■ 提言を受け取った 庄内川河川事務所長、副所長の言葉

所長：長い間、ボランティアで熱心に取り組んでいただいて、ありがとうございました。いろいろな情報や意見をいただいて、我々のほうが勉強になったと思います。実現には難しい提案もありますが、できることは来年からでもきちっと取り組みたい。引き続き、協働事業でお世話になりますが、今後ともよろしくお願いします。

副所長：市民意見交換会の提案内容については、河川整備計画を策定していく中で、関係機関等と調整を図りながら実現に向け進めていきます。この内容は、かなり計画に盛り込めるのではないかと思います。事務所としても具体化したいと思う提案については、できるところから順次進めていきたいと思っています。

● 川体験と憩いの場づくり

豊かな川体験を伝え、川を憩いの場とするために

- 提案1** 「川沿いにずっと歩ける道」を確保する
 - ・堤防上あるいは河原に、歩行者道確保し、流域をつなぐ。
 - ・下流の堤防道路は一方通行にし、川側に歩道を確保する。
 - ・歩く道沿いの要所に木陰のための木や並木を植える。
- 提案2** 川沿いに自然と文化の学習路を設定する
 - ・歴史環境、自然環境、産業などのポイントを結ぶ回遊路を設定し、看板、マップ、体験プログラムを充実させる。
- 提案3** 「遊べる河原」「降りられる場所」「川辺の小路」を市民との協働でを管理する
- 提案4** 流域の要所に、トイレ、水道、木陰、駐車場を提供する「ミニ拠点(川の駅)」を配置する
- 提案5** 下流に「川遊びハウス」を設ける

● 地域からの治水、防災

流域全体で治水安全度を高め、地域の防災力を高めるために

- 提案1** 雨水貯留施設の普及や遊水地の設置など流域全体で流出抑制を推進する
- 提案2** 堤防の強化と水防拠点の整備を推進する
- 提案3** 地域の防災力を高める取り組み
 - ・情報の伝達システムを改善する。
 - ・避難場所やルートを点検し安全に避難できるようにする。
 - ・地域の情報を基にした地区独自のハザードマップづくり。
 - ・NPO との連携と活用を進める。
 - ・災害に強いまちづくりや住まい方、備えなどの情報を整理し伝える。

自然拠点を、市民と行政と一緒に育てる
▼志段見ビオトープでのイカダ遊び



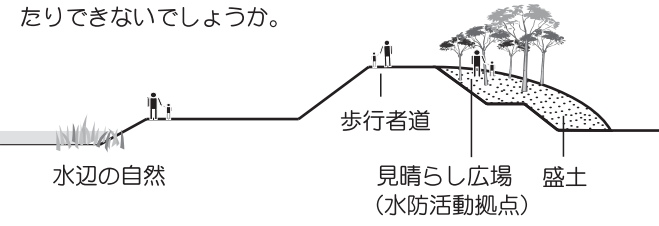
川に近付ける道づくり
川に降りる小路▶(春日井)

▼流域をつなぐ遊歩道(新土岐川橋付近／土岐市)



堤防強化+憩いの場と歩道づくりのアイデア

現在堤防の狭いところでも、堤防の外側に少し盛土をして地面を広げ、木を植えたりできないでしょうか。



土岐川・庄内川河川整備計画への提言（項目のみ紹介） ー土岐川・庄内川の魅力資源を活かした豊かな川づくりに向けてー

メッセージ

土岐川庄内川は、今もなお魅力的で多様な川の姿をとめています。河口部に広がるヨシ原の風景、一色大橋の袂に残る松並木の風景、枇杷島橋下流の広い河川敷と多様な河川利用、周辺の歴史資源、勝川橋上流の中流部らしい川の風景、渓谷、多治見市から上流の街並みや人々の暮らしと結びついた川の風景など、多様な魅力資源がちりばめられています。流域の市民と行政と一緒にその魅力を再発見し、ともに豊かな川をつくるために、次のような提案をまとめました。

● 歴史・文化を活かす

土岐川庄内川の原因風景を大事にし、周辺の歴史文化を活かす

- 提案1** ビューポイント（見晴らしのいい場所）を、川の見所として整備する
 - ・堤防を広くしたミニ広場、木陰やベンチを設置し、水辺に降りられるようにするとよい。
- 提案2** 旧街道との結節点や川と道が交差する橋詰めに「川の一里塚」など小広場を整備する
 - ・川へのアクセスや水防活動、災害時の物資（海上輸送）の荷揚げ場など
- 提案3** 川の魅力と歴史資源ガイドマップを作成する

● 生態系豊かな、きれいな川

多様な生態系を育む環境、ゴミのないきれいな川にするために

- 提案1** 生態系の拠点を核に「緑・水路・池・湿地・水田」のネットワークを形成する
 - ・まとまった自然拠点をリスト化し、環境情報を整理する。
 - ・市民活動団体や学校などの協力を得て、定期的、継続的な環境調査を実施するための仕組みを検討する。
 - ・調査を基に、それぞれの拠点の位置づけや保全・管理方針など、流域全体の生態系回復の構想、計画を立案する。
 - ・市民参加による生態系保全管理の「実験の場」を設ける。
 - ・昔の農業用水路を、都市の新たな親水空間にする。
- 提案2** 市民、学校、行政で協働して育む水辺拠点を流域に増やしていく
- 提案3** 河川の自然を回復し、水質の向上を図る。
 - ・現存する良好な自然エリアや川の多様性を保全する
 - ・瀬や淵など失われた川の自然と多様性を復元する。
 - ・川本来の自然的な環境を保全復元し、生き物と人とがともに豊かに関われる川づくりを工夫する。
 - ・堰や床止め、魚道を見直し、魚が移動できる環境をつくる。
 - ・行政、企業、市民レベルの水質改善の対策を進める。
 - ・河川整備への住民参加、合意のシステムをつくる。
- 提案4** ゴミのないきれいな川づくりを進める